

市民自治の明石市政 大きく前進させよう



市長選挙公開討論会に林氏は欠席 中川、丸谷両氏は自治基本条例「遵守」を明言

4月16日告示、23日投・開票の明石市長選挙に立候補を予定している3名の方々を招き市民自治あかしが3月29日夜開催した「市民マニフェスト公開討論会」には、当初出席を予定していた林健太氏が前日になって「出席しない」と通知してきたため、中川暢三氏と丸谷聡子氏の2名が市民自治あかしからの質問に答える形でそれぞれの政策を提案し、2時間にわたって討論を繰り上げました。

市長選挙での公開討論会は2011年以来5回目。自民党系の候補が直前になって出席を取りやめたのは2011年、2015年に続いて3回目になります。

今回の明石市長選は、泉市長が市議への暴言問題の責任を取って今任期限りで退任を表明することを昨年10月に表明したあと、自らの政策を継承発展してくれる「後継者」を擁立することを明言。後継者が市政運営をしやすくなるように市議会議員も多数擁立することを“宣言”し、自ら立ち上げた政治団体「明石市民の会」から6名の市議・県議候補を擁立して市長候補と合わせてトリプル選挙の制覇をめざす異例の展開になり、選挙の結果が全国的に注目されています。

林氏の欠席理由「質問が特定候補者に有利な内容」?

討論会では中川、丸谷両氏とも「市民自治のまちづくり」を掲げた「明石市の憲法」と言われる自治基本条例を「遵守する」と明言し、条例の趣旨に沿った政策の展開を語りました。これに対し、林氏は「質問が特定候補者に有利な内容」を欠席の理由に挙げています。

(裏面に討論会欠席に関する主催者見解を掲載)

市民自治あかしは、市民マニフェストは候補者が誰も手を挙げていない1月末に原案、3月初めに最終版を発表し、最初に表明した林氏にもその時点で提示しているため、そのような指摘は当たりません。

立候補を表明している方々(表明順)

はやし けんた
林 健太氏 (40) 明石市議

なかがわちようぞう
中川 暢三氏 (67) 元・加西市長

まるたにさとこ
丸谷 聡子氏 (59) 明石市議



公開討論会の全録画放映中

市民自治あかしのホームページから
ご視聴ください

<https://shiminjichi-akashi.net/>

甲乙つけ難い政策論争 他市の市長経験者と明石市政に精通した市議

公開討論会

12の質問に白熱した応答

公開討論会には130人余の市民や市議、職員らも参加し、2時間にわたった討論に耳を傾けました。

主催者側が用意した質問は、市民マニフェストに基づく12問。冒頭に立候補の動機や市長になってやりたいこと、市政が直面している重要課題などを話したうえで、「市長としての基本的な姿勢」や「中長期的な財政見通しと対応」「持続可能な循環型社会をめざした具体的な政策」について、主催者側の質問に次々に答えました。

この中では、市長と議会との関係のあり方や、市長と職員の信頼関係づくり、巨額の公共事業である市役所新庁舎の建設計画、初期投資だけでも418億円と見積もられている新ごみ処理施設計画などの具体的な課題についても、それぞれが加西市での市長経験や市議として明石市政に8年間取り組んできた実績を踏まえて白熱した討論を交わしました。

また、相互に質問して答える場面では、市長経験を持つ中川氏が「市長と市議に求められる能力の違い」を質したり、丸谷氏は「あちこちの選挙に出ていて、明石の問題にどれだけ精通しているのか」などを質して、互いの“急所”に直球を投げる場面もありました。

最後は会場から提出された25人の質問票から、①新庁舎②教育③自然環境④財政に関わる質問を双方に投げかけるとともに、それぞれに3つずつ質問するなど10項目を取り上げて30分にわたって答えてもらいました。

2つの課題を浮き彫り

市民の市政への関心と参画を高める自治基本条例の浸透を図る

市民自治あかしは討論会の翌日、世話人会を開いて討論会を検証し、候補者の評価に関わる議論を行い、3つの論点を集約しました。

一つ目は、自・公等への推薦を求めている候補が討論会に出席しなかったことです。この問題は右欄別稿にまとめました。

二つ目は、討論いただいた2名の候補者は自治基本条例を遵守し市民参画に取り組むことを明確にしており、政策上でも大きな優劣をつけ難いと評価しました。

三つ目は、討論会でも浮かび上がった大事な課題は、市民がもっと市政に関心を持ち市政に参画すること。もう一つは、具体的な政策課題を進めるためにも、自治基本条例を市民はもちろん職員や議員にも浸透を図ることが、何よりも大事なことが明確になったことです。

林健太氏の討論会欠席

市民自治あかしの見解

市民自治あかしの「市長選挙立候補予定者による公開討論会」は、市民が望む政策を実行できる市長を有権者市民が選択するための判断材料を得るため、2011年から5回にわたって開催してきました。前年から議論を重ねて準備してきた「市民マニフェスト」を年初から原案にまとめ、2月に3回にわたって市民討論集会を重ねて、3月初めに最終版を発表してきました。

今回の場合は市長候補が一人も手を挙げていない時点で最終版をまとめて発表していたから、欠席理由に挙げる「特定の候補に有利な質問」という批判は全く当たりません。一番先に表明した林氏には、直後に討論会への出席を要請し、当初予定していた日程の都合が悪いことが判明したために同氏の都合に合わせて日程を変更してきた経緯もあります。

詳細な質問項目は、3人目の候補者が表明した翌日に完成し、26日から27日にかけて3氏に届けました。質問の中で提案する政策に反対または意見が異なるなら、その旨を表明いただければいいことで、それが政策論争であり、市民に問いかけることだと考えます。

林氏が所属してきた市議会の「自民党真誠会」は「議員と市民の意見交換会」への参加を呼びかけても参加したことはなく、市議会の運営等についての市民参画や議会運営の透明化を求める請願にもことごとく反対してきた経緯もあり、基本的に「意見の異なる市民との対話」を避ける体質があると言えません。

明石市の自治基本条例は「市民自治のまちづくり」を掲げており、「自治の主体は市民」と明記し、市政への市民参画を市政運営の原則の第一に掲げています。市民も議員も多様な意見があります。市政運営は「議論と対話」を重ねて積み上げていくものである限り、意見の異なる市民との対話を拒否する人は、基本的に市長にはふさわしくありません。

討論会に参加した多くの市民も「対話を避けた欠席は残念だ」と、アンケートで感想を記していました。